

## 「幼稚園の理論と實際」より

### 幼兒の取扱と躾

子供を公平に取扱はねばならぬ事は、幼稚園管理の要素として重要な事ではあるが、尙ほ不知不識の間に偏愛の弊に陥る若き保母達のある事は事實である。太郎は先生の命令に賢く敏捷に應ずるので朝の會集や、ゲームの色々な世話から、保母は、外の子供が太郎の獨占して居る仕事を自分もさせて貰ひ度いと望んで居ることを忘れて居たのである。成程他の子供等は氣が利かぬだらう、併し、氣が利かぬ故に特に呼出されて利用せられねばならぬ幼稚園の子供には、どの子にでも、園の用事や日課の世話をさせる機會を與へてやらねばならぬ。幼稚園は決して、太郎や、花子の早熟を見せびらかす場所ではない、グズ／＼した子供、オズ／＼した子供なほ何れも皆一樣に、活動や仕事をする機會を持たして貰はれる筈である。即ち幼稚園は子供の——總ての子供の

### 馬場 定 一(譯)

——發達のための制度である事を忘れてはならぬ。子供の取扱を公平にするといふ事から延いては幼稚園に於ける躾の問題に逢著するわけであるが、心理學者は「幼稚園には躾なし」と云つた様に記憶して居るが、若し幼稚園の躾が巧妙なる一つの過程であつて、全體としての保育法の中に含まれた一部であるから、特に一要目として、判然と取あぐべき性質のものではない、と云ふたのであつたら、もつと正確の云ひ方であつたらふと思ふ。

マリヤ、モンテッソリー女史が「躾は自由を貫して行はれなければならぬ」と云はれた事は、「兒童の家」(The Italian houses of child hood)に於けると同様、一般幼稚園に於ても亦真理である。自由の空氣は自學、自制、自信を得べき機會を與ふるものであつて、是等は、いつかは當然實るべき果實である。

併し乍ら若い保母達には學年の始めに當つて、初めて幼稚園の一般管理に携はる時には、躾は稍嚴肅な

題目として現はれる事と思ふ。自分の預つた三十人乃至四十五人の子供等を見ると其中には有ゆる型、有ゆる國民性を持つて居るものが居る。家庭の躰にしても或るものは善く、或るものは悪く乃至は又善くも悪くもなく、中には又全然躰などを受けてゐないものも居るであらう。又中には非常に頑固な子供も居て、保母の有ゆる方法手段もつき、唱歌を歌はせやうとするといつでも訖度「高等學校に入つてから歌ひます」といふのである。或はオヅ／＼した子が居て、自分の當惑を隠す爲に空威張の態度をとつて、いつも皆に嫌はれるものもある、又如何かすると床の上に倒れて烈しく足を蹴つて兩親や先生を降参させる、非常に甘やかされた子供も居る。又五歳の時から近所の墓場で露營する様な冒險的な子供も居り、所有の觀念が缺けて居て自分の物でない物を持つて行くやうな子供、虚言をつきたがる子供、誇大妄想の子供、想像觀念の缺けて居る子供等種々雑多な子供が居る。勿論中には幸福な氣の利いた正常な子供も居るのであるが、扱是等の様々なる變た分子を調和した一團となす事は決して小さな問題ではない。此場合當然保母の持つて居る心理學や教育

學の知識が役に立たねばならぬし又、個性の變化を翻譯すべき基礎として保母は、子供の一般の傾向並に其の意味を知る事が必要である、即ち子供の行爲を顧みて其を起した動機を考へなければならぬのである。

或る若い保母が、子供に擬戰遊戲をさせて居た。一列に立つて居た子供等は擬馬に乗つて、代る／＼木劍を提げて、先生の高く掲げて居る二つの輪をどらんとして室の中を駆け廻つて居たのであつた。列の一番終りに立つて居た子供は、早く自分の順番が來ればいゝと非常に待遠しく思つて居るやうであつたが、終から三番目の子供の順番が來て出て行つた時、もうたまりかねて、立派な擬馬の眞似のつもりで頭を前に投げ出して、馬の様に跳び始めた。參觀者の見た處ではこの子供は其表情から見ると、取りわけ其のゲームに吸収せられて居る様に喜ばしげに見えたのであつた。所からこの若き保母の目には、不規律な子供と見えたのであらう、この任意活動の表現は禁止され而してその子供は罪の宣告を受けたのであつた。我儘なる腕白と、任意活動即ち止みかたき活動とを區別し得る事は、小さい子供を取扱ふ

上について最も大切な事である。故に保母は、子供の行爲が何を意味して居るかを發見する習慣を養ひ、其の本質的であるか非本質的であるかを見分け得べき識別力を養はなければならぬ。併し澤山な子供の事であるから中には看過せられ無頓著に見遁さるゝ行爲が少くない事と思ふ。尙又保母は子供の行爲は最後のものではなくして變化して行くべきものであるといふ事を悟らなければならぬ、この事に就いてデューウィー博士は次の如く云つて居る「子供が現在經驗して居る事は決して自己説明にはならぬ。其の行爲は最後のものではなくして變化すべき性質のものである。其れは決して其れ自身で完成したものに非ずして、或るものに生長すべき傾向の象徴若しくは索引の如きものである。吾々は子供の或る瞬間の行爲を凝視する事を怠る時は常に惑はされて遂に其の行爲の意味を諒解する事が出来ないものである。子供を道徳的に又は智的に其の相當價值以下に見過ぎる事も、乃至は又感情的に之を理想化する事も共に根本に於て共通の誤謬を持つて居る。即ち何れも、生長又は動作の一過程に過ぎないものを、切り離された、固定的のものとして見る事から起つ

て居るのである。第一の場合は、其れ丈取り離して見る時は、少しも善くなる様な見込がないのみならず、却て悪くなる様に見えるが、實は、其の感情や行爲の中には美しき方向に發達すべき萌芽が含まれて居るものである事を知らなかつたのであつて、又第二の場合は、如何にも立派な美しい表現の様に見えるものでも其れは唯單に象徴に過ぎないのであつて、而も其の美しいと見えた瞬間から既に悪い方に傾きつゝあるものなる事を見遁して居たのである」。既に述べた通り、保母の目標は保母と園兒との間の信賴の關係を發達せしむる事及び園兒に對する保母の取扱には公平なる對度を保持する事でなければならぬが、之に加ふるに更に孺に變化なき事を以てしなければならぬ。家庭に於て子供を取扱ふ如くに、普通の母の定見なき躰程子供に不幸を與へる事はあるまい。この事は家庭では多少恕すべき點があるけれども、幼稚園に於ては毫も恕すべきものではない。保育は保母の最上の仕事であつて、細微の點に互つて其の全力を獻げる事は保母の義務であるからである。保母は園兒の特異性に激してはいけない。或は又幼稚園の管理をなすに方つて自分の氣分や感

情に支配せられてはならぬ。保母は常にフレーベルの所謂正義又は最善、the abstract Right, the ideal Mean に導かれなければならぬ。之に反する行爲は必ず失敗を意味するものである。

或人は、子供の各過失は道德上の缺陷と観ねばならぬ、そして其儘過失に生活せしめるよりも寧ろ其缺陷たる道目を子供に浸み込ませるがよい、と云つて居る。これは善良なる教育的手段に根柢をもてる、安全なる法則である。そして其使用は大抵の場合有利である。故に例へば、ビク／＼した子供には自信と勇氣とを與へ、盜癖のある子供には所有權の念を與へ妄想的の子供には事實の真相を見せ、又想像力の少い子供にはお伽噺や想像遊戲の滋養を與へる事が必要である。

「禁ずる事は唯却て子供を引きつけるものである。善とは何であるかを子供に示す爲に却つて悪くなるやうに子供に教へるな」とは有名な格言である、故に誰にでも隨分能く使はれて居る「してはならぬ」の代りに、積極的な「せよ」を代用する事は最も幸福な結果を來すものである。積極手段は子供の注意を新しくより良き形の活動に轉ずるものであつて、其活動

は何時か子供の習慣性となるべきものである。消極手段の必要を需むる場合も無いではないが、それは普通の場合ではない様な事柄に一層有效である。

禮義に關する子供の表現や行爲上の習慣は躰に於て最も重要な位置を占めて居るものであつて、お行儀は決して看過せらるべきものではない。幼稚園の團體生活は此の躰に役立つものであるから、忠實なる保母は必ず之を看過してはならぬ。保母はお行儀の本質を其の日々の行爲に體現しなければならぬ。子供等が、その柔かい心に判然と映つて來る保母の性質を自分自身の小さい生命に再現しやうとする可愛らしき企ては、實に興味ある事であると同時に誠に可憐なものである。

幼稚園での懲罰の仕事は救濟的で、出来るならば何時でも應報的な方法でなければならぬ。即ち懲罰せらるゝ方法は過失の自然の結果でなければならぬ。何となれば、懲罰の眞の作用は子供が過失の性質を發見して再び夫れを繰返さない方法を指摘する様各個人を助くる事にあるからである。

幼稚園に遣入る時に、靴について居る泥を落すための靴拭を、不注意の爲めに、使用する事を忘れる子供があつたので、塵取と

ブラッシンと持せて室の中に落した泥を掃かせた處が、二三同用の後其習慣を癒す事が出来た。又或る子供は床に唾を吐く穢い習慣に耽るので可成澤山な、石鹼と水とで床を掃除させる事にして少し長く、そして少し骨の折れるやうにさせた所が、再び其罪を重ねない様になつた。又或る子供は、友達を撲つ癖があつて、それが中々しつこいので、色々の手段で隔離して見たけれども少しも其效がなかつた。或る朝、目立つた罪を犯したので。保母は思切つた處置を執るべき時が來たと思つて、其子供を室から連れて來て、「汝は自分の手の信頼すべき監督者でないから、この手を自由にして置くことは最早安心出来ない」と云ふ意味の事を簡単に話して、幅の廣い木綿の紐で兩手を一緒に括つて、室に連れて歸り、いつもの席に坐らせた。朝食の間何故自分の手が自由にされないのかの意味を考へさせられた。保母や子供等は其子の椅子を動かしたりなどして待つて居た。保母は其結果が如何であるか、辛棒とされないで困るがと、熱心に注意して見て居た所が、その子は其の罰を眞面目に受けて、唱歌でも遊戯でも出来る限りは皆に加はる事が出来たのであつた。その子供は其事を明かに正當の事と認める事が出来たから少しも恨の狀を現さなかつた。これは完全に癒りなかつたにしても確かに永い間爲めになつた事と思ふ。

「行爲は言葉よりも聲高く話す」の言は幼稚園の躰に於て最も適切に採用せられ得るものである。或る過を犯した園児に對して保母は稍冗長なるお談議に陥り易いもので最近一幼稚園で目撃した處に由つて見るも、かゝる方法は常に話が其子供に徹底しないのみならず、組全體を非常に騒がしくするものである。

る。或ゲームの時間であつたが、一人の子供が綱を引張たり投げたりして、不規律に騒いでいくら保母が之を制しても毫も聞かなかつたので、遂にゲームを中止して、皆の前でその子にお談議を始め、皆が不規律に騒がしくなる迄續けたが終に其の子供は改めなかつた。このお談議は子供等にとつては明かに無意味であつたが、若し再び其過を繰返した時、直ちに其子を列から引き出したならば其事は過ちをした子供のみならず他の子供全體に意味をなした筈である。保母としての一つの積極行動は、一場のお談議よりも遙かにためになるものである。此事の眞理なる事は幼稚園の實際に於て度々經驗し得る事である。子供等は保母の優しきと輕快さとの背後には硬き道德的脊骨のある事を知つて爲めに保母に對する尊敬の念は高くなるに至ることである。

デントン、スナイデル氏 Denton Snider の母の遊嬉 “The Mother play” の註釋の一節は、父が其品性の中に正義の本質を多量に體現して居るのに對して母の方には愛の要素が勝つて居ることに注意を惹くものである。若し保母が子供等の立派な守護者であるものならば、愛と正義との兩性格を何れ勝り劣りなく兼ね備へねばならぬわけである。然りとせば保母は、子供を保育するに當つては、子供の爲善なりと思ふ事であれば、其の心絲を引く如き辛き事をも敢てせねばならぬ事である。